

インターバンクの声（2015年1月21日）

キング牧師の生誕記念の祝日明けとなったニューヨーク市場で、ドル円相場が先週13日以来となる118円台後半までしっかり戻って来た。悲観的に待ち構えていた昨年中国の国内総生産（GDP）が予想ほど悪くなかったことや、国際通貨基金（IMF）が発表した今年以降の世界経済見通しの中での米経済見通しを堅調としたことがドルの対主要通貨での上昇につながったようだ。また、今日の日銀金融政策決定会合で10月31日のサプライズ緩和同様に何かあるのではとの憶測も円売りの材料になっていたらしい。ところで、日本では欧米市場ほどスイスフラン建ての為替資産規模が大きくない為か、直接巻き込まれてしまった人以外は、先週の木曜から金曜にかけてのスイスフラン・ショックの影響がまだ数日しか経っていないのに薄れ始めてしまっている。しかし、思わぬところから早速このスイスフランの高騰を嘆く後輩の声を聴いて驚いた。自分への昨年の頑張りに対する褒美としてスイス製のR社製腕時計を買おうと思っていたらしいが、日本の代理店が通貨高を理由に早くも10%近くも値上げしたというのだ。1万円が1万1千円になる規模ではないので、気の毒だが怪我をしない事故にあったと思ってまた頑張るしかないだろう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。